

# 日刊 勤労千葉

79.9.12 No. 222

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
電話二二五八・九(公衆電話三三三七二〇七)

# 「デマ号外」(その27)の「ワノと居直り」を弾劾する!

## 殺人未遂の「4・17襲撃」下手人集団が 盗人だけではないペテンと泣きぐせの

思いついたように「動力車新聞」「デマ号外」27号・28号が発行された。(なぜか、日付抹消!) 連日新小岩や津田沼支部の職場を多数で傍若無人に泥靴でふみにじり暴行の数々を働いている「本部」反動暴力集団が、事実を逆転し「中野一味がオルグ団を襲撃」などと仰々しい見出しをつけて大デマをかき連ねているこの『号外』を我々は絶対に許すことはできない。

事実はどうだノ! 8・31ぼう若無人の「ビラはがし」「ピットつき落とし」事件が発端!!

①、八月三十一日、「本部」オルグ一〇〇名のうち五〇名が一五時三〇分ごろ津田沼電車区検修庫に入りこみ、勤労千葉のビラを勝手にはがし出す。  
②、この暴挙に対し当然ながら抗議した五名の勤労千葉組合員を五〇名の「本部」暴力集団がとりかこみおさえつけて、なぐる、けるの集団暴行を働き、あまつさえ、勤労千葉の二名の組合員が深さ一mのピットにつき落され負傷するという蛮行を働いたのである。

③、この事態をきいて、乗務員詰所から救援にかけつけ、勤労千葉組合員五〇名が、この暴挙に激しく抗議、小ぜり合いを含む口論。

「本部」百名と対峙する状態となった。しばらくして当局が割って入り双方責任者を通じての応しゅうとなった。

中心の問題は「ビラはがし」「ピットつき落とし」の蛮行糾弾であり、勤労千葉布施執行委員が「うちの組合員への集団暴行は許せない。特にピットつき落としの蛮行を働いた者を出して謝罪させよ」と追及したのに対し、「本部」佐々木は盗人猛々しくも「お前たちがオルグの人間をピットにひきずり落したのだ」と事実無根のデタラメで言いがれる。ピットにつき落された勤労千葉組合員Aさんがさすがに怒り「ウソをつくな。そこにいるそいつが俺をつき落したんだ。出てきてあやまれ」と指さして抗議。布施(執)より「本人がそう言っている。それならお前たちの側で俺がピットにひきずり落されたという人間が居たらその人間は出てきて証言してみよ」と具体的に問いつめられて詰まってしまった佐々木(本部)は、「その必要はない」と逃げの一手で、ウソがバレてしまった。  
④、この様な状況でしばらく口論を中心としたこぜり合いがあり「4・17は当然」「ビラはがしは当然」「千葉勤労などリンチされても当然」などと居をおる彼らに対し職場の怒りもえ拡がり、当局に守られつつ彼らは大衆的怒りの前に裏口から押し出されこそと逃げ帰ったのである。

馬脚あらわす『デマ号外』

まず第一にわれわれは、「本部」暴力集団の傍

若無人の職場じゅうりんを怒りをこめて弾劾するものである。そもそも、よその職場にずかずか入り込むばかりか、数をたよりに組合ビラ・掲示をも勝手にはがし、あまつさえ当然にも抗議した五名の組合員に五〇名の「本部」暴力集団がよってたかってリンチ・蛮行を加えるという凶悪行為など、断じて許すことはできない。

第二に、発端となった「ピット突き落とし」の蛮行に關し「号外」はなんと「(ピットの下にいる)千葉の組合員が(ピットの上の)オルグ団員の髪の毛をつかんでピットの中へ引きずり落した」なる白を黒といいくるめる苦しまぎれの大ウソを並べている。諸君この通りに図解してみよ、どういう事になるのか? ピットの深さ約一メートル。そうすれば「二メートル半以上の大男」?! でもなければまずそんなことは無理ではないのか?

第三に、「無抵抗で、おとなしく帰ろうとしていた本部オルグがグルリととりかこまれ、一人一人検問されリンチされた」かのようなデタラメな記述に至ってはあきれられるばかりである。「勤労千葉の五〇名の組合員」が、一体どのようにして「一〇〇名のオルグ団」をグルリととりかこみ検問するなど出来るのか?! 教えてもらいたいものである。ことごとくが、このような見えすいたデマなのである。

追いつめられた最後のあがき「暴力」と「デマ」をうちくだけ前進しよう

「襲撃された!」「ひどい!」などと泣き面で大デマを並べたて「これが証拠」といって、何のことはない小ぜり合いの際の破れたシャツの(それも持ち帰ったあとで自作自演とばかりに「加工して」グロテスクな写真をのせるといふ見えすいた手口。我々は激しい怒りをおさえる事はできない! そもそも、あの「津山大会会場の暴挙」「4・11錦糸町ホームでの集団暴行」そして何よりも、竹竿でメッタ打ちされうずくまった片岡津田沼支部長に密室でよってたかってこぶし大の石(実に巧妙・残忍な凶器だ!)で全身・頭部をめつた打ちにして頭がい骨骨折のひん死の重傷を負わしたあの「4・17襲撃」の数々ノ! その下手人共が、このような「デマ」を流しているのだ。  
職場の怒りで反動集団を掃し、一四〇〇の闘う団結をうち固め勤労大改革へむけ更に前進しよう!